

川柳

バスタオルの柄 血液に見えて 猛ダッシュ（看護師 大高）

みどりの風

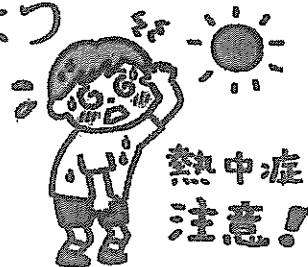
NO.48

発行・編集責任（緑風会会長 大矢正明）

蒸し暑い毎日 熱中症に注意しましょう

… 熱中症を疑う症状…

- めまい 筋肉の硬直 不快感 けん体感 失神
- 大量の発汗 吐き気 虚脱感 筋肉痛 頭痛
- おう吐 意識障害 けいれん 高体温 手足の運動障害



応急処置

= 意識がありますか =

「意識なし」の場合⇒救急車を呼ぶ⇒涼しい場所へ避難し、服を緩め、体を冷やす
⇒速やかに医療機関へ

「意識あり」の場合⇒涼しい場所へ避難し、服を緩め、体を冷やす⇒自分で水分を取るように促す⇒飲める⇒そのまま安静にして十分に休息を取り、回復したら帰宅しましょう
↓
飲めない⇒速やかに医療機関へ

昭和46年当時の透析事情

昭和42年頃の人工透析費用は一人につき30~40万円。資産家以外は医療費支払いできず死を選ぶしかなかった。それを何とかしようと全国に患者会が設立された。その後、昭和46年頃の透析事情を

中日新聞が以下のように伝えている

現在、県下には31台の人エジン臓がある。ところが一人の患者が使用する場合、一回六時間もかかるため、一日に一人か二人しか使えない。一週間に二回使用するのがふつうで、一台の人エジン臓を使う患者は三、四人。人エジン臓の使用料は一日約三万円。一週二回使うと、使用料だけで一カ月二十数万円もかかり、治療費、入院費なども合わせると1ヶ月四十万前後になる。保険の被保険者ならまだしも、半額負担や三割負担の国保加入者にとっては、手が届かないのが実情。

尿毒症で死んでいく人には、人エジン臓を使えない人が多い。“だれでも人エジン臓を簡単に使えるように”というのが患者の強い願いだ。

昭和46年8月中旬「岐阜県腎臓病患者連絡協議会」が結成され、医療費全額公費負担などの要望を関係機関に働きかけた。

透析に 自己負担 20万~40万/月 とでも無理!

透析に自己負担20万~40万/月とでも無理! 透析に自己負担20万~40万/月とでも無理!

透析に自己負担20万~40万/月とでも無理!